

いわての復興教育

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和3年度の『管内復興教育研修会』は、中止としました。本研修会で予定していた「各校における復興教育の推進の取組」についての実践交流、本県の教育の根幹をなす「いわての復興教育について」の講義、「震災を語り継ぐ」講話を通して、「いわての復興教育」の目的やねらい、思いを改めて共有し、学びの質を高める取組について考えたり、意識の高揚につなげたりする機会になればと計画していました。以下に、予定していた講義・講話の概要をまとめました。今年度の取組の更なる充実や来年度に向けた計画の見直し・改善の参考にしていただければと思います。

管内復興教育研修会（予定されていた内容の概要）

講話 「震災を語り継ぐ」

講師：一関市立大東小学校
校長 及川 輝美 先生



震災当時、釜石市立白山小学校の副校長として、避難所運営等の陣頭指揮にあたられました。出来事を時系列にたどりながら、地域の方々との避難所生活のエピソードや学校再開に向けた取組、全国からいただいた支援や激励への感謝など、当時の実体験から感じたこと、考えたことを真つ直ぐな言葉で届けてくださいました。

学校やそこで働く教師が、地域にしっかりと根を下ろし、つながりをつくっていくことの大切さ、児童の命をあずかることの重み、悲しみや困難の中だからこそ感じた人の温かさなど、「生き方・命・つながり」の大切さを実感する内容でした。

【震災の経験を通して伝えたいこと】 講話から

- ・児童の安否を保護者に知らせる方法など、危機管理マニュアルの見直し、改善を図ることの重要性。
- ・防災学習では、提示した状況を児童に考えさせたり、判断させたりすることで、実践力の向上につなげ、自ら避難できる子どもたちを育てること。
- ・震災の経験を語り継ぐことの必要性。

*各市町により配付形態は異なりますが、動画データを校内研等でご活用ください。

系統的・発展的な「いわての復興教育」の推進

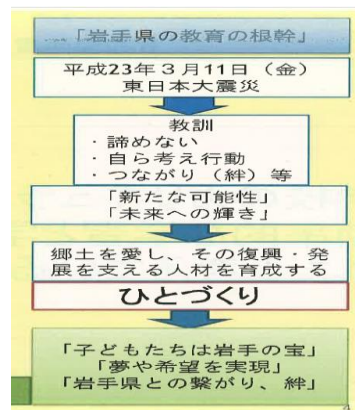
いわての復興教育は、「岩手だからこそできる教育、やるべき教育」です。令和3年度学校教育指導指針には、系統的・発展的ないわての復興教育を推進するために、副読本などの効果的な活用や震災の教訓を未来に語り継ぐ期間の充実が示されています。常に見直し改善を図りながら、各地域、各校の実態に合った、実践的かつ質の高い復興教育を「チーム学校」で進めていくことが大切です。本講話や講義の資料がその一助となればと思います。

講義 「いわての復興教育について」

講師：岩手県教育委員会事務局 学校教育室
産業・復興教育担当
主任指導主事 小松山 浩樹

【講義のスライドから】

「いわての復興教育」が目指すもの(ねらい)は、郷土を愛し、その復興・発展を支える「ひとづくり」です。ここが、忘れてはならない原点になります。



2 副読本「いきる かかわる そなえる」

いわての復興教育副読本『いきる かかわる そなえる』



【構成】

- ・33市町村の話題の掲載→実態に合った指導が可能。
- ・自然災害だけでなく、様々な困難な事象への対応・関連付けが可能→実践・汎用性につながります。
- ・各教科との関連付けが可能→学びの質の向上につながります。

【活用のPoint】

- ・「ひと・もの・こと」の関わりから学ぶこと。
- ・組織的・有機的な指導や事前・事後学習を充実させること。
- ・学校の実情に応じた「しかけ」をすること。